



企業の独立という挑戦

令和6年6月29日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業の独立は可能性という未来を可能とする。これらは今日の変化がさらなる未来を有し、それらが限りない可能性を有することにおいて理解できるものである。

これらは独立において企業はそれらを可能とすることにおいて、企業の独立という挑戦は意味を与えるものである。

経済と自由経済システムは企業へ無限の自由を与えていえるのである。これらは競争とともに製品と企業の進歩が存在し、それらが今日革命的变化を有するのである。

このダイナミズムは、ビジネスにおける偉大な高揚なのである。

これらは未来という可能性が自己の独立性において未だ夢想しない未来という現実を与えると理解できるからなのである。

企業が夢を有することは難しいことは理解である。彼らは現実において自己を有するからである。

しかしこれら技術進歩が与える未来はその夢という定義が否定できないのである。

これら独立は、可能性とともに創造性を許容するものであり、これらが今日の主流であることは理解されなくてはならない。

これらは既存日本の価値観では決して許容されるものでない。しかしこの絶対的な現実は否定できないのである。

これらはアメリカの創造性という新しい未来を否定できるものはいないである。

これら創造性は未来そのものであり、社会転換を与える基盤なのである。これらが経済の意味と価値の変化を与えたことは理解すべきである。